

総則・評価特別部会、小学校部会、 中学校部会、高等学校部会 参考資料（整理中）

目次

1. 「社会に開かれた教育課程」の実現と総則を軸とした教育課程の総体的構造の可視化

・これまでの中教審の議論の経過と今後のスケジュール	5
・次期学習指導要領改訂に向けた検討体制	6
・次期学習指導要領改訂の趣旨の共有等に向けて	7
・これからの時代に求められる在り方	8
・学習指導要領改訂の背景	9
・「初等中等教育における教育課程基準等の在り方について」諮問(平成26年11月)の概要	10
・これからの教育課程の理念「社会に開かれた教育課程」	11
・学習指導要領改訂の方向性(案)	12
・育成すべき資質・能力の三つの柱(案)	13

2. 学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

・カリキュラム・マネジメントの3つの側面	15
・学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ(案)	16
・資質・能力の育成に向けた各教科等の関係(案)	17

3. 「何ができるようになるか」(教育目標と育成すべき資質・能力の明確化)

・各学校段階を通じた教育のイメージ(検討案)	19
・各教科等の学校段階別の教育のイメージ(案)	20

4. 「何を学ぶか」(各教科等を学ぶ意義と教科等横断的な視点を踏まえた教育課程の編成)

・各教科等の見方・考え方(案)	31
・英語教育の抜本的強化のイメージ	35
・中央教育審議会小学校部会におけるこれまでの議論のとりまとめ(平成28年3月14日)	36
・グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)	37
・小学校段階におけるプログラミング教育のあり方について(議論のとりまとめ)	38
・高等学校の教科・科目構成について(案)	39
・高等学校国語科の改訂の方向性(案)	40
・高等学校数学科の科目構成の見直しについて(案)	41
・高等学校家庭科(共通教科)の改訂の方向性(案)	42
・高等学校における英語科目の改訂の方向性として考えられる構成(たたき台)	43
・高等学校地理歴史科、公民科に置かれる各科目のイメージ(案)	44
・高等学校理数科目の改訂の方向性として考えられる構成(案)	45
・探究する力の育成イメージ(たたき台)	46
・情報科新科目のイメージ	47

目次

5. どのように学ぶか(指導案等の作成と実施、学習指導の改善・充実)

・深い学びと学力の関係	49
・主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)(案)	50
・資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」の視点)の関係(イメージ)(案)	51
・学習指導要領改訂のポイント(「教育の強靱化に向けて」)	52

6. 何が身に付いたか(学習評価の充実)

・観点別学習状況の評価について	54
・学習評価の改善に関する今後の検討の方向性	55
・各教科等の学習評価の観点のイメージ案(高等学校段階)	56

7. 子供の発達をどのように支援するか(学習活動の基盤作り、キャリア教育、特別な配慮を必要とする児童への指導案)

・特別活動の内容の構成(学級活動、HR)について(イメージ案)	61
・キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」と 資質・能力の三つの柱(案)	64
・キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」 の育成のイメージ(案)	65
・各学校における個に応じた指導の実施状況	67
・特別支援教育関連資料	69
・日本語指導関連資料	87

8. 実施するために何が必要か(家庭・地域との連携・協働、チーム学校等)

・未来を担う子供たちのために「次世代の学校」創生へ	98
・地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み	99
・教育課程外の学校教育活動や地域主体の教育活動と、 教育課程との関係	100
・学校と家庭、地域の連携について	101
・これからの学校教育を担う教員の資質能力の 向上について(答申)	102
・チームとしての学校の在り方と今後の改善方策に ついて(答申)	104
・新しい時代の教育や地方創世の実現に向けた学校と地域 の連携・協働の在り方と今後の推進方策について	106
・学校現場における業務の適正化に向けて	108
・次期学習指導要領改訂に向けて(PR資料)	110

目次

9. 小・中・高等学校それぞれにおける諸課題への対応

(小学校)	
・小学校段階で育成すべき資質・能力(「論点整理」抜粋)	112
・教科等の担任制の実施状況等	113
・小学校の授業時数等について	114
・週時程の工夫等について	115
・教員の1日の業務の内訳	120
・教員の1週間の勤務イメージ	128
・幼小の連携について	129
(中学校)	
・中学校段階で育成すべき資質・能力(「論点整理」抜粋)	136
・数学・理科の学習に対する生徒の意識	137
・中学校3年生の学習習慣	138
・教育課程外の学校教育活動や地域主体の教育活動と、 教育課程との関係	139
・部活動の学習指導要領上の位置づけについて	140
・運動部活動の意義等について	141
・運動部活動と運動習慣、体力等の関係	142
・部活動の在り方に関する調査(全日本中学校長会)	143
・我が国の教員の現状と課題	144
・小中一貫教育の取組状況	145
・小中一貫教育についての実態調査の概要	146
・小中一貫教育の成果と課題	148
・小中一貫教育の全体の制度設計	150
・いわゆる中一ギャップについて	153
(高等学校)	
・高等学校段階で共通して育成すべき資質・能力 (「論点整理」抜粋)	159
・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力に関する答申等	161
・義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための指導	163
・高大接続システム改革の全体イメージ	164
・高大接続システム改革のスケジュール	165
・高等学校教育の質の確保・向上に向けた全体的な取組について	168
・多様な学習活動や学習成果を適切に評価する仕組みの構築 (イメージ)	169
・「高等学校基礎学力テスト(仮称)」について	170
・「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の各教科において、 大学教育を受けるために必要な能力としてどのような力を評価すべきか	172
・探究について	175
・「産業社会と人間」について	182

1. 「社会に開かれた教育課程」の実現と総則を軸とした教育課程の総体的構造の可視化

これまでの中教審の議論の経過と今後のスケジュール

平成26年11月	中央教育審議会総会 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問
平成26年12月	教育課程部会 ・教育課程企画特別部会を設置
平成27年1月	教育課程企画特別部会（第1回） 新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り方等に関する基本的な方向性について、計14回審議
平成27年8月	教育課程企画特別部会（第14回） 教育課程部会 ・「論点整理」をとりまとめ
平成27年秋以降	論点整理の方向に沿って教科等別・学校種別に専門的に検討
平成28年夏頃	教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、審議のまとめ
平成28年内	中央教育審議会として答申

(小学校は32年度から、中学は33年度から全面实施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。)

次期学習指導要領改訂に向けた検討体制

平成27年8月26日
教育課程部会了承

中央教育審議会教育課程部会

教育課程企画特別部会

幼児教育部会

小学校部会

中学校部会

高等学校部会

特別支援教育部会

総則・評価特別部会

国語ワーキンググループ

言語能力の向上に関する特別チーム

外国語ワーキンググループ

社会・地理歴史・公民ワーキンググループ

高等学校の地歴・公民科目
在り方に関する特別チーム

算数・数学ワーキンググループ

高等学校の数学・理科にわたる
探究的科目の在り方に関する特別チーム

理科ワーキンググループ
6

芸術ワーキンググループ

家庭・技術・家庭ワーキンググループ

情報ワーキンググループ

体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ

考える道徳への転換に向けたワーキンググループ

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ

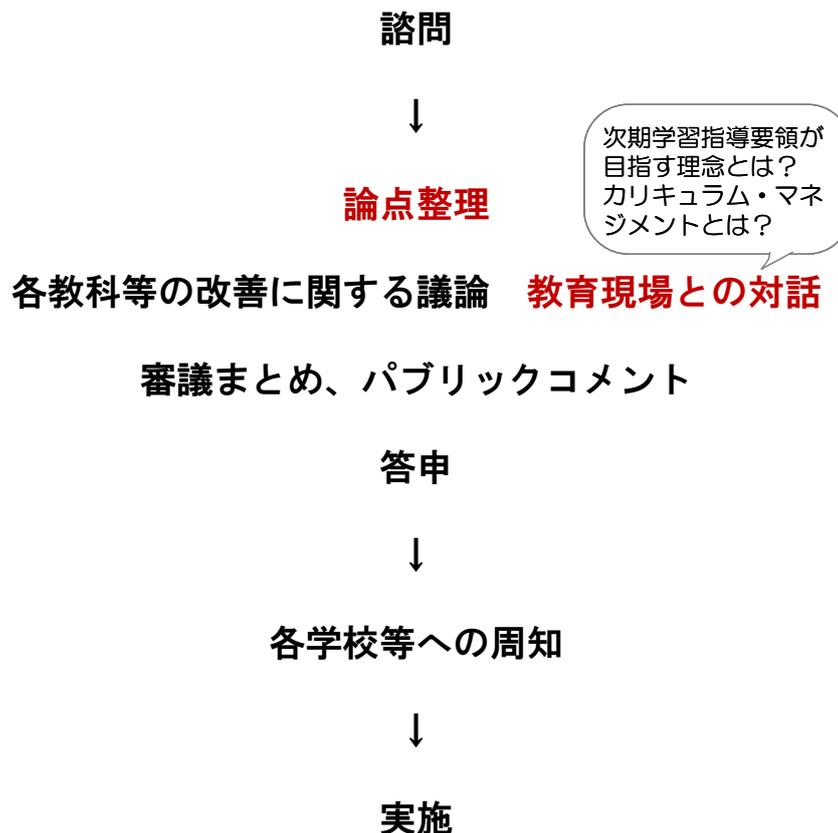
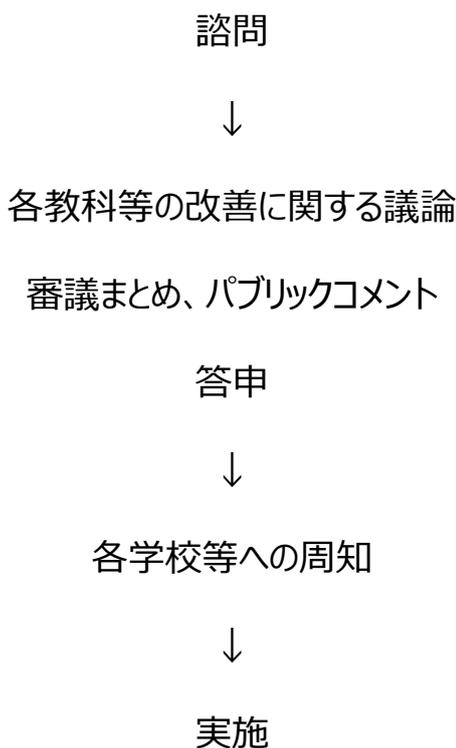
特別活動ワーキンググループ

産業教育ワーキンググループ

次期学習指導要領改訂の趣旨の共有等に向けて

<今回の検討スケジュール>

<従来の検討スケジュール>



21世紀が知的基盤社会であるという認識は、前回改訂と共通。
グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、
将来の予測がますます難しい時代に。

(現代的な課題)

- ・ 社会的・職業的に自立した人間として、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できること。
- ・ 他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができること。
- ・ 社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

8

学習指導要領改訂の背景

人工知能が進化して、
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

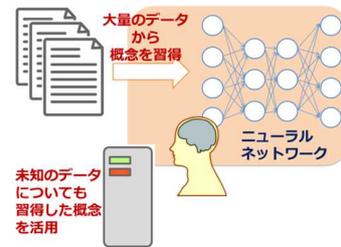
今学校で教えていることは、
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、
未来の創り手となるために必要な知識や力を
確実に備えることのできる学校教育を実現します。

人工知能(AI)が飛躍的に進化する中、**我が国の学校教育が育む「人間の強み」**が明らかになっています。

近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っています。

⇒こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものです。



新しい教育課程では、**学校教育のよさをさらに進化**させていきます。

- ・ これからの時代に求められる知識や力とは何かを明確にし、教育目標に盛り込みます。これにより、子供が学びの意義や成果を自覚して次の学びにつなげたり、学校と地域・家庭とが教育目標を共有して「カリキュラム・マネジメント」を行ったりしやすくなります。
- ・ 生きて働く知識や力を育む質の高い学習過程を実現するため、各教科における学びの特質を明確にするとともに、授業改善の視点（「アクティブ・ラーニングの視点」）を明確にします。これにより、教科の特質に応じた深い学びと、我が国の強みである「授業研究」を通じたさらなる授業改善を実現します。

趣旨

- ◆ 子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化する可能性。
- ◆ そうした厳しい挑戦の時代を乗り越え、**伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力**が必要。

- ◆ そのためには、教育の在り方も一層進化させる必要。
- ◆ 特に、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、**学びの質や深まりを重視**することが必要。また、学びの成果として「**どのような力が身に付いたか**」という視点が重要。

審議事項の柱

1. **新しい時代に求められる資質・能力を踏まえた、初等中等教育全体を通じた改訂の基本方針、学習・指導方法の在り方(アクティブ・ラーニング)や評価方法の在り方等**
2. **新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直し**
 - グローバル社会において求められる英語教育の在り方(小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化)
 - 国家及び社会の責任ある形成者を育むための高等学校教育の在り方
 - ・主体的に社会参画するための力を育てる新たな科目等
 - ・日本史の必修化の扱いなど地理歴史科の見直し
 - ・より高度な思考力等を育成する新たな教科・科目
 - ・より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の改善
 - ・社会的要請も踏まえた専門学科のカリキュラムの在り方など、職業教育の充実
 - ・義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための教科・科目等 など
3. **各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策**

⇒平成28年度中を目途に答申、2020年(平成32年)から順次実施予定 10

これからの教育課程の理念

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

新しい時代に必要な資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

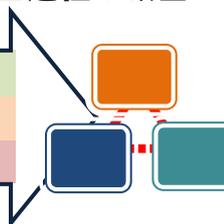
生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

深い学び

対話的な学び

主体的な学び



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

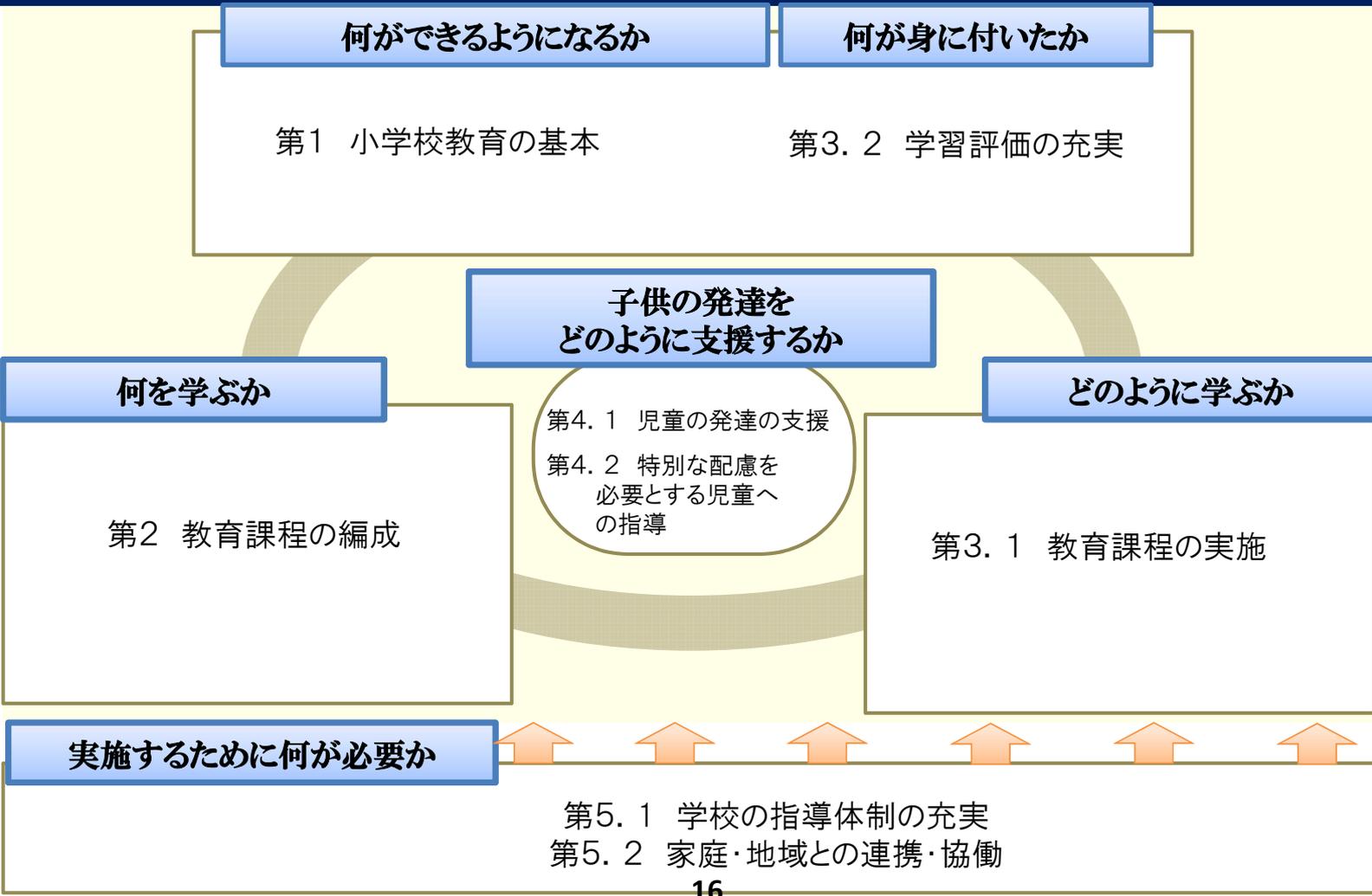
2. 学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

14

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ (案)



資質・能力の育成に向けた各教科等の関係 (案)

学校教育目標と、それに基づき育成すべき資質・能力の設定

(子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき設定)

- ◆学校教育目標と、それに基づき育成すべき資質・能力を設定し、それらを踏まえて、教科横断的な視点で教育課程を編成
- ◆教科を越えた学校内の連携や地域等との連携を図りながら、教育課程の内容と人的・物的資源等を効果的に組み合わせて実施

- ◆実施状況に関する各種調査やデータ等を踏まえつつ、教育課程を評価し改善

平成28年5月10日
教育課程企画特別部会
資料5 (会議後修正)

家庭・地域等

- ◆学校教育目標や育成すべき資質・能力を家庭・地域等とも共有

各教科

- ◆各教科の特質に応じ育まれる見方や考え方を働かせた学びを通して、教科相互の関連性を視野に入れながら、資質・能力を育成

総合的な学習の時間

- ◆学校が育成すべき資質・能力を踏まえて教育目標を設定 (学校教育目標と直接的につながる)
- ◆各教科の見方や考え方を総合的に活用し、自ら問いを見出し探究することを通じて資質・能力を育成

特別活動

- ◆学習の基盤となる学校生活全体の基盤づくりと、自分の生活やキャリアに学びをどう生かすかという振り返り
- ◆各教科の見方や考え方を総合的に活用し、望ましい集団活動を通じて資質・能力を育成

特別の教科 道徳

- ◆よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
- ◆各教科等で育成する人間性の基盤となる

教育課程外の教育活動

- ◆関連する教科等の見方や考え方を働かせた学びを促進するなど、教育課程との関連を図る

- ◆教育課程の実施にあたり連携・協働

- ◆教育課程外の教育活動の実施にあたり連携・協働
- ◆学校教育以外の多様な教育活動の機会を提供

3. 「何ができるようになるか」 (教育目標と育成すべき資質・能力の明確化)

各学校段階を通じた教育のイメージ (検討案)

平成28年6月1日
教育課程部
高等学校部
資料3

【高等学校】

⇒主に生涯にわたる社会生活やより主体的な社会参画、その後の専門的な学習のために必要となる 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【中学校】

⇒主に生涯にわたる社会生活の基盤となる 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【小学校】

⇒主に日常生活から身近な社会生活を送るに あたり必要となる資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【幼児教育】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、初等中等教育の出口のところで身に付けておくべき力を明確にしながら、幼・小・中・高の教育を、縦のつながりの見通しを持って系統的に組織していくことが重要(「論点整理」より)
- これを踏まえ、小・中・高については、育成すべき資質・能力の三つの柱(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」)に沿って、各学校段階で育成すべき資質・能力を明確化することとしてはどうか。
- その上で、学習指導要領・総則において、各学校段階の教育を通じて育成すべき資質・能力として示すこととしてはどうか。
- なお、幼児教育については、三つの柱に沿って資質・能力の育成を行うが、遊びを通しての総合的な指導の中で一体的に育まれるため、5歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として整理している。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量・図形、文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

各教科等の学校段階別の教育のイメージ(案)(小学校段階)

※平成28年6月15日現在、各教科等WGで検討中の案を抜粋したものの

教科等	柱	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
国語科	◎国語で理解し表現することを通じて、創造的・論理的思考の側面や感性・情緒の側面、日常生活における人との関わりの側面から言葉の働きを捉える言葉に対する見方・考え方を働かせ、言語感覚を養い、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。	①日常生活に必要な国語の特質について理解し使うことができるようにする。	②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、日常生活における人との関わりの中で、国語で正確に理解したり適切に表現したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。	③言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに、言葉の大切さを自覚し、国語を尊重するようにする。
社会科	◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり養う。	①地域や我が国の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して、社会生活について理解するとともに、調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	②社会的事象の特色や相互の関連意味について多角的に考える力、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、思考・判断したことを適切に表現する力を養うようにする。	③社会的事象について、よりよい社会を考え課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土や歴史に対する愛情、地域社会の一員としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を養うようにする。
算数科	◎数学的な見方・考え方を働かせ、算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。	①数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。	②日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。	③数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う
理科	◎自然に親しみ、理科における見方・考え方を働かせて、問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、より妥当な考えを導き出す過程を通して、自然の事物・現象を科学的に解決するために必要な資質・能力を養う。	①自然の事物・現象に対する基本的な概念や性質の理解を図り、観察・実験等の基本的な技能を養う。	②見通しをもって観察・実験などを行い、問題解決の能力を養う。	③自然を大切にし、生命を尊重する態度、科学的に探究する態度、妥当性を検討する態度を養う。

20

生活科	◎具体的な活動や体験を行うことを通じて、生活科の特質に応じて育まれる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくため、次のように資質・能力を育成する。	①活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、関係性に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。	②身近な人々、社会及び自然と自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力を育成する。	③身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしようとしたりする態度を育てる。
音楽科	◎表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽に対する感性を育むとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。	①音楽的な特徴や構造と、曲想との関わりについて理解することや、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けることができるようにする。	②様々な音楽の特徴を感じ取りながら、音楽表現を工夫することや、音楽のよさなどを味わって聴くことができるようにする。	③様々な音楽に親しみ、生活の中の音や音楽の働きに気づき、音楽を愛好する心情をもてるようにする。
図画工作科	◎表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせて、感性を育み、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。	①形や色などの特徴について、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、創造的な技能を身に付けることができるようにする。	②豊かに発想や構想することや、作品などからよさや美しさなどを感じ取ることなど、創造的に思考・判断できるようにする。	③主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わい、生活の中の様々な造形に関わるようにする。
家庭科	◎家庭科の見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成する。	①日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能を養う。	②日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な方法を考え、実践を振り返って評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	③家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
体育科	◎課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせ、心と体を一体として捉え、心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現を目指すための資質・能力を育成する。	①各種の運動の特性・魅力に応じた行い方や身近な健康についての理解を図るとともに、基礎的な動きや基本的な技能を育成する。	②運動や健康についての自己の課題に気づき、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を育成する。	③運動の楽しさや喜びを味わうとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を育成する
道徳	検討中	検討中	検討中	検討中

21

外国語活動	◎言語や文化の多様性を知り、外国語の見方・考え方を働かせ、それらの大切さに気付くとともに、相手意識を持って聞いたり話したりするコミュニケーション能力の素地となる資質・能力を次のとおり育成する。	①外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付く。	②外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーションを行う力を養う。	③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
外国語科	◎言語や文化の多様性を知り、外国語の見方・考え方を働かせ、それらの大切さに気付いて、相手意識を持って聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりするコミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を次のとおり育成する。	①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化を尊重するようにする。	②身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーションを行う力を養う。	③相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
総合的な学習の時間	◎総合的な学習の時間の特徴に応じて育まれる探究的な見方・考え方を使得って、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協同（協働）して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考え、探究的に学習することを通して、次のとおり資質・能力を育成する。	①問題の解決や探究活動を通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する。	②実社会や実生活の中から問いを見いだし、探究的な見方・考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする。	③実社会や実生活の中から問いを見いだし、主体的・協同的（協働的）に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に社会の活動に参加し次の課題に取り組もうとする態度を育てる。
特別活動	◎集団や社会の形成者として、特別活動の特徴に応じて育まれる見方や考え方を使得って、多様な他者との様々な（望ましい）集団活動に自主的・実践的に取り組み互いのよさや可能性を發揮することを通して、次のとおり必要な資質・能力を育成する。	①よりよい集団活動に向けた実践をする上で必要となる知識や技能を身に付けるとともに、多様な他者との様々な集団活動の意義を理解する。	②所属する様々な集団や自己の生活上の問題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする	③様々な望ましい集団活動を通して身に付けたことを生かし、よりよい人間関係を構築しようとしたり、よりよい集団生活を形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする自主的・実践的な態度を育てる。

22

各教科等の学校段階別の教育のイメージ(案) (中学校段階)

※平成28年6月15日現在、各教科等WGで検討中の案を抜粋したものです

教科等	柱	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
国語科	◎国語で理解し表現することを通じて、創造的・論理的思考の側面や感性・情緒の側面、社会生活における人との関わりの側面から言葉の働きを捉える言葉に対する見方・考え方を働かせ、言語感覚を豊かにし、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。	①社会生活に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。	②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、社会生活における人との関わりの中で、国語で正確に理解したり適切に表現したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。	③言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに、言語文化に関わり、国語を尊重するようにする。
社会科	◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり養う。	①我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	②社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。	③社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。
数学科	◎数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。	①数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付ける。	②事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	③数学のよさを実感し、数学を活用して粘り強く考え、生活や学習に生かしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
理科	◎自然の事物・現象について、理科における見方・考え方を働かせて、問題を明確にして、見通しをもって課題を設定し、観察・実験などを行い、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。	①自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の基本的な理解と科学的探究についての基本的な理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。	②見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析・解釈する力を養う。	③自然を敬い、自然の事物・事象にすすんでかわり、科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。

音楽科	◎表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすとともに、生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。	①音楽の背景や構造と、曲想との関わり及び音楽の多様性について理解することや、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けることができるようにする。	②多様な音楽の特徴を捉え、音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする。	③音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽と人々の暮らしなどとの関わりから、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに諸外国の音楽文化の多様性に気付き、音楽を愛好する心情をもてるようにする。
美術科	◎表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせて、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばすとともに、生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。	①形や色彩などの特徴について、創造活動を通じた造形的な視点として理解したり、美術作品や文化遺産などについて造形的な特徴などから理解を深めたりすることや、発想や構想したことを基に、意図に応じて創意工夫して表す創造的な技能を身に付けることができるようにする。	②豊かに発想や構想することや、造形的なよさや美しさを感じ取り味わったり、美術文化を伝統的かつ創造的な側面から捉えたりして、創造的に思考・判断できるようにする。	③主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、美術の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の美術の働きや美術文化と豊かに関わり、美術を愛好する心情をもてるようにする。
技術家庭科 (家庭分野)	◎家庭分野の見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成する。	①家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能を養う。	②家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	③自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
技術家庭科 (技術分野)	◎技術分野の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な学習活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成する。	①生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報等の技術についての基礎的な理解と技能を養い、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	②生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し解決策を構想し製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	③よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
保健体育科	◎課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせ、心と体を一体として捉え、心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現を目指すための資質・能力を育成する。	①各種の運動の特性・魅力に応じた運動についての理解や自他の健康についての理解を深めるとともに、基本的な技能を育成する。	②運動や健康についての自他の課題に気付き、よりよい解決に向けて思考・判断し、目的に応じて他者に伝える能力を育成する。	③生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を育成する。

道徳	検討中	検討中	検討中	検討中
外国語科	◎外国語やその背景にある文化を尊重し、外国語の見方・考え方を働かせ、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、簡単な情報や意見などの交換などのコミュニケーションを行うことができる資質・能力を次のとおり育成する。	①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。	②外国語で具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報や意見などの交換などができるコミュニケーションの力を養う。	③他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
総合的な学習の時間	◎総合的な学習の時間の特質に応じて育まれる探究的な見方・考え方を働かせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協働（協働）して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考え、探究的に学習することを通して、次のとおり資質・能力を育成する。	①問題の解決や探究活動を通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する。	②実社会や実生活の中から問いを見だし、探究的な見方・考え方を働かせ、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	③実社会や実生活の中から問いを見だし、主体的・協働的（協働的）に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に社会に参画し次の課題に取り組もうとする態度を育てる。
特別活動	◎集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方や考え方を働かせ、多様な他者との様々な（望ましい）集団活動に自主的・実践的に取り組み互いのよさや可能性を発揮することを通して、次のとおり必要な資質・能力を育成する。	①よりよい集団活動に向けた実践をする上で必要となる知識や技能を身に付けるとともに、多様な他者との様々な集団活動の意義や役割を理解する。	②所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	③様々な望ましい集団活動を通して身に付けたことを生かし、よりよい人間関係を構築しようしたり、よりよい集団生活や社会を形成しようしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうしたりする自主的・実践的な態度を育てる。

各教科等の学校段階別の教育のイメージ(案) (高等学校段階)

※平成28年6月15日現在、各教科等WGで検討中の案を抜粋したものの

教科等	柱	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
国語科	◎国語で理解し表現することを通じて、創造的・論理的思考の側面や感性・情緒の側面、他者や社会との関わりの側面から言葉の働きを捉える言葉に対する見方・考え方を働かせ、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。	①生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。	②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、他者や社会との関わりの中で、国語で的確に理解したり効果的に表現したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めるようにする。	③言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図るようにする。
地理歴史科	◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり養う。	①日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	②地理や歴史に関わる諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。	③地理や歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。
公民科	◎社会的な見方・考え方を働かせ課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり養う。	①選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	②現代の諸課題について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて構想したりする力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。	③人間と社会の在り方に関わる課題について、よりよい社会の実現のために主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにする。
数学科	◎数学的な見方・考え方を働かせ本質を明らかにするなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。	①数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付ける。	②事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	③数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。

26

理科	◎自然の事物・現象について、理科における見方・考え方を働かせて見通しをもって課題や仮説を設定し、観察・実験などを行い、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、事象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。	①自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。	②見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に探究したり、科学的な根拠を基に表現したりする力を養う。	③自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。
芸術科(音楽)	◎音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせて、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解を深める資質・能力を育成する。	①音楽の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及び音楽の多様性について理解することや、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けることができるようにする。	②多様な音楽の特徴を捉え、楽曲の背景などと関わらせながら音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	③音楽活動の喜びを味わい、我が国及び諸外国の様々な音楽と幅広く関わり、音や音楽を生活や社会に生かそうとして、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもてるようにする。
芸術科(美術)	◎美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、造形的な見方・考え方を働かせて、感性を高め、創造的な表現及び鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての理解を深める資質・能力を育成する。	①造形要素の働きについて、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、発想や構想したことを基に、意図に応じて表現方法を工夫して表す創造的な技能を身に付けることができるようにする。	②主題を生成したり創造的に構想したりすることや、美術作品などの表現の工夫を捉えたり、美術文化を伝統的かつ創造的側面から幅広く捉えたりして、そのよさや美しさを感じ取り味わうなど、創造的に思考・判断できるようにする。	③主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、美術の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の美術の働きや美術文化と幅広く関わり、生涯にわたり美術を愛好する心情をもてるようにする。
芸術科(工芸)	◎工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、造形的な見方・考え方を働かせて、感性を高め、創造的な表現及び鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての理解を深める資質・能力を育成する。	①造形要素の働きについて、創造活動を通じた造形的な視点として理解することや、発想や構想したことを基に、意図に応じて吟味し創意工夫して制作する創造的な技能を身に付けることができるようにする。	②心豊かに発想や構想することや、工芸作品などの表現の工夫、工夫の伝統と文化の創造的側面などを幅広く捉え、そのよさや美しさを感じ取り味わうなど、創造的に思考・判断できるようにする。	③主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み、工芸の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化と幅広く関わり、生涯にわたり工芸を愛好する心情をもてるようにする。

27

芸術科 (書道)	◎書道の幅広い活動を通して、書の特質に即した見方・考え方を働かせて、感性を高め、書写能力の向上を図り、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活や社会の中での文字と書の働きや、書の伝統と文化について理解を深める資質・能力を育成する。	①書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解することや、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫して表すために、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付けることができるようにする。	②書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫することや、書表現を創造的に味わったり、書の伝統と文化を歴史的背景との関連から捉えたりするなどして、書の効用を考えたり、作品の意味や価値を見出したりすることができるようにする。	③書の創造的活動の喜びを味わい、表現と鑑賞の幅広い活動に主体的に取り組むとともに、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、書の伝統と文化に豊かに関わり、生涯にわたり書を愛好する心情をもてるようにする。
家庭科	◎家庭科の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な年代の人と交流し、相互に支え合う社会の構築に向けて、生涯を見通し、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成する。	①自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能を養う。	②家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを化学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	③様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を養う。
保健体育科	◎課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせ、心と体を一体として捉え、心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現を目指すための資質・能力を育成する。	①各種の運動の特性・魅力に応じた運動についての理解や他者や社会の健康についての理解を図るとともに、段階的な技能を育成する。	②運動や健康についての自他や社会の課題に気づき、よりよい解決に向けて思考・判断し、目的や状況に応じて他者に伝える力を育成する。	③生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育成する。
道徳	検討中	検討中	検討中	検討中
外国語科	◎外国語やその背景にある文化を尊重し、外国語の見方・考え方を働かせ、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを外国語で正確に理解したり、表現し、伝え合ったりするコミュニケーションを行うことができる資質・能力を次のとおり育成する。	①外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付ける。	②外国語で目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーション力を養う。	③外国語の学習を通じて、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

28

総合的な探究の時間 (仮称)	◎総合的な時間の特質に応じて育まれる探究的な見方・考え方をを使って、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協働（協働）して、よりよく課題を解決し自己の在り方生き方を考え探究することを通して、次のとおり資質・能力を育成する。	①課題を探究することを通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解する。	②実社会や実生活の中から問いを見だし、探究的な見方・考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	③実社会や実生活の中から問いを見だし、主体的・協働的（協働的）に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の在り方生き方に生かし、主体的に新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めさらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。
特別活動	◎集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方や考え方をを使って、多様な他者との様々な（望ましい）集団活動に自主的・実践的に取り組み互いのよさや可能性を發揮することを通して、次のとおり必要な資質・能力を育成する。	①よりよい集団活動に向けた実践をする上で必要となる知識や技能を身に付けるとともに、多様な他者との様々な集団活動の意義や役割、価値を理解する。	②所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	③様々な望ましい集団活動を通して身に付けたことを生かし、よりよい人間関係を構築しようとしたり、よりよい集団生活や社会を形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする自主的・実践的な態度を育てる。
情報科	◎情報科の見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通じて、次のとおり資質・能力を育てる。	①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得させるとともに、情報社会と人間との関わりについての理解を深める。	②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育てる。	③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を育てる。
産業教育	◎職業に関する各教科の見方・考え方を働かせ、社会や産業の課題を捉えてその解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、次のような資質・能力を育成する。	①各職業分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。	②各職業分野に関する課題(持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。	③職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

4. 「何を学ぶか」 (各教科等を学ぶ意義と教科横断的な視点での教育課程の編成)

各教科等の見方・考え方(案)

※平成28年6月15日現在、各教科等WGで検討中の案を抜粋したもの

教科等	小学校	中学校	高等学校
国語科	①創造的思考とそれを支える論理的思考の側面、②感性・情緒の側面、③他者とのコミュニケーションの側面から言葉の働きを捉え、理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めること。	同左	同左
社会科 地理歴史科 公民科	(社会的事象の見方・考え方) 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を見出し、比較・分類したり総合したり、国民(人々)の生活と関連付けること。	(社会的事象の地理的な見方・考え方) 絶対的、相対的など位置や空間的な広がりに関わる視点に着目して社会的事象を見出し、環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けること。 (社会的事象の歴史的な見方・考え方) 時代の転換など、時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し、比較して相違や共通性などを明確にして、諸事象とその背景などの関連性に留意すること。 (現代社会の見方・考え方) 対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し、それらの解決に向けて多様な概念と関連付けること。	(社会的事象の地理的な見方・考え方) 時間距離や等質性など位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し、環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けること。 (社会的事象の歴史的な見方・考え方) 時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し、比較して共通性や相違点などを明確にしたりして、因果など事象相互の関連性に留意すること。 (人間と社会の在り方についての見方・考え方) 人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し、それらの解決に向けて民主主義、自由・権利と責任・義務など選択・判断するための手掛かりとなる考え方と関連付けること。
算数科 数学科 理科	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。
生活科	身近な自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなど、問題解決の方法を用いて考えること。	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなど、科学的に探究する方法を用いて、多面的に考えること。	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなど、科学的に探究する方法を用いて、多面的・総合的に考えること。

音楽科	音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と音楽によって喚起されるイメージや感情、音楽と生活などとの関わりについて考えること。	音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と音楽によって喚起されるイメージや感情、音楽と生活や社会、文化などとの関わりについて考えること。	感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を深く捉え、音楽的な特徴と音楽によって喚起されるイメージや感情、芸術としての音楽とその文化的・歴史的背景などとの関わりについて考えること。
図画工作科 美術科 芸術科（美術・工芸）	（図画工作科） 感性や想像力などを働かせて、形や色などの造形的な視点で対象を捉え、自分のイメージを持ちながら、造形と生活などとの関わりについて創造的に考えること。	（美術科） 感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象のイメージや自己の内面、他者、社会、文化などを捉え、心豊かに生きることと美術の関わりについて創造的に考えること。	（美術） 感性や美的感覚、想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象のイメージや自己の内面、他者、社会、文化などを深く捉え、心豊かに生きることと芸術としての美術の関わりについて創造的に考えること。 （工芸） 感性や美的感覚、想像力を働かせて、形や色彩、素材などの造形的な視点で、対象のイメージや自己の思い、他者、社会、伝統と文化などを深く捉え、心豊かに生きることと芸術としての工芸の関わりについて創造的に考えること。
芸術科（書道）	—	—	感性を働かせて、書を構成する要素やその関連から生み出される働きの視点で芸術としての書を深く捉え、文字と書の伝統と文化、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの多様な関わりの中で、書の特質に即して考えること。
家庭科 技術家庭科	（家庭科） 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象において、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活を実現するために考えること。	（家庭分野） 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象において、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活を実現するために考えること。 （技術分野） 生活や社会において、安全性、社会からの要求、環境負荷や経済性等の視点から技術により解決すべき問題を捉え、解決に向けて、科学的な特性に着目しつつ、技術が最適なものとなるよう考えること。	（家庭科） 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象において、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活を実現するために考えること。

32

体育科・保健体育科	（体育科） 運動やスポーツについて、その意義や特性に着目して、楽しさや喜びを見出すとともに体力の向上に果たす役割を捉え、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった視点を踏まえながら、自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」等の多様な関わり方について考えること。	（体育分野） 運動やスポーツについて、その意義や特性に着目して、楽しさや喜びを見出すとともに体力の向上に果たす役割を捉え、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった視点を踏まえながら、自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」等の多様な関わり方について考えること。 （保健分野） 健康や安全の視点から情報を捉え、心身の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりを目指して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることについて考えること。	同左
道徳科	検討中	検討中	検討中
外国語活動	外国語やその背景にある文化を尊重し、他者との関わりからの側面から言語を捉え、目的・場面・状況等に応じて、外国語で情報や考えなどを形成・整理・再構築し、それらを活用して、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること。	—	—
外国語科	外国語やその背景にある文化を尊重し、他者との関わりからの側面から言語を捉え、目的・場面・状況等に応じて、外国語で情報や考えなどを形成・整理・再構築し、それらを活用して、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること。	外国語やその背景にある文化を尊重し、他者との関わりからの側面から言語を捉え、目的・場面・状況等に応じて、外国語で情報や考えなどを形成・整理・再構築し、それらを活用して、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること。	外国語やその背景にある文化を尊重し、他者との関わりからの側面から言語を捉え、目的・場面・状況等に応じて、外国語で情報や考えなどを形成・整理・再構築し、それらを活用して、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること。
総合的な学習の時間・総合的な探究の時間(仮称)	各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈の中で物事を考えたり、自分自身の生き方と関連付けて内省的に考えたりすること。	各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈の中で物事を考えたり、自分自身の生き方と関連付けて内省的に考えたりすること。	各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈の中で物事を考えたり、自分自身の在り方生き方と関連付けて内省的に考えたりすること。

特別活動	各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、よりよい人間関係の構築、よりよい集団生活や社会の形成及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること。	同左	同左
情報科	—	—	事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けた情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザイン等）について考える。
産業教育	—	—	職業に関する各教科の本質に根ざした視点から社会や産業の課題を捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの工夫・創造に向けて考える。

英語教育の抜本的強化のイメージ

※具体的な小学校の授業時数については、年内~年明けを目途に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

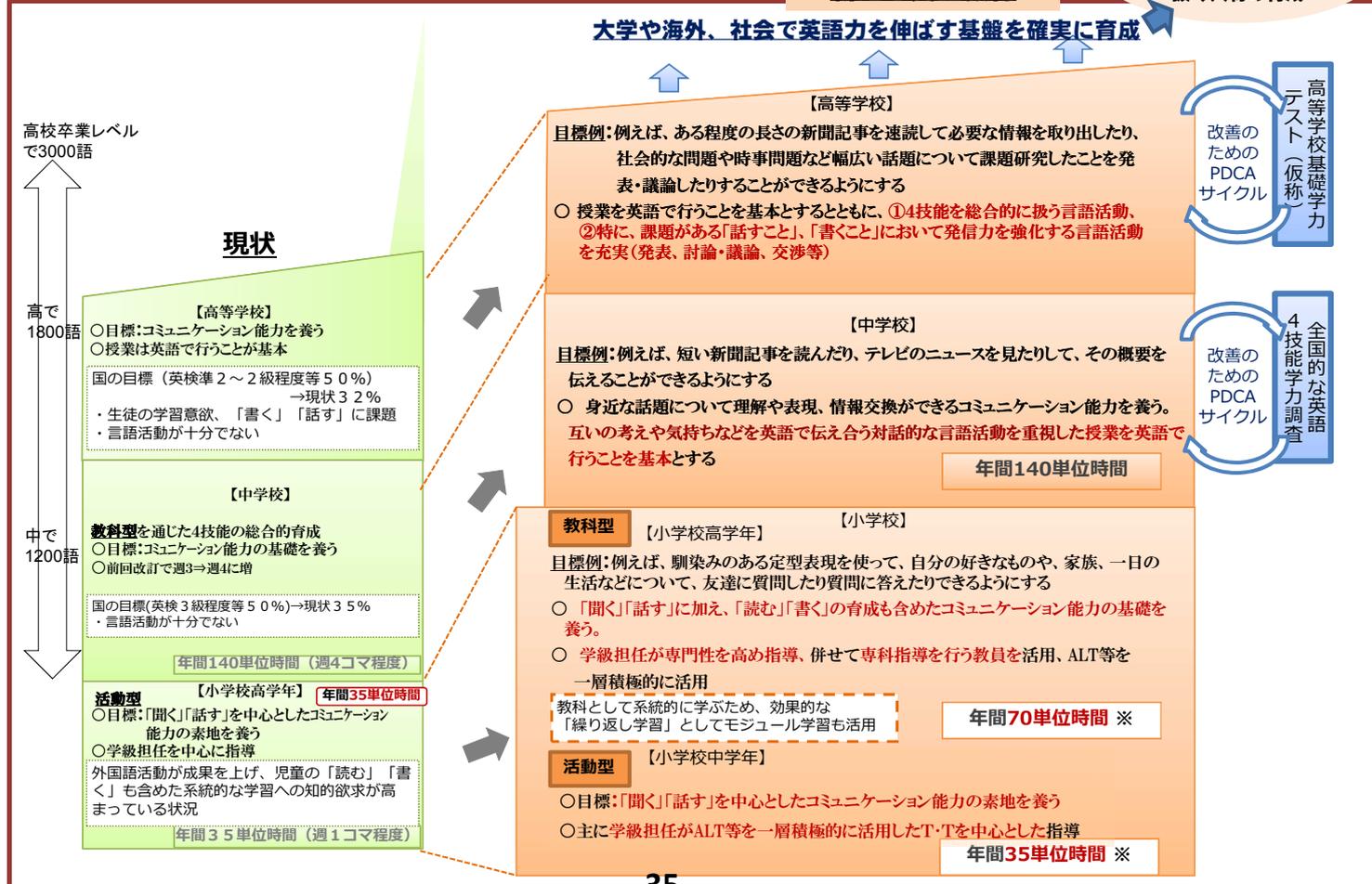
CEFR
B2
B1
A2
A1

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

新たな英語教育

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成

大学や海外、社会で英語力を伸ばす基盤を確実に育成



- 小学校教育の在り方 低学年・中学年・高学年
- 育成すべき資質・能力とカリキュラム・マネジメント
- 言語能力の育成

①創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面、②感性・情緒の側面、③他者とのコミュニケーションの側面

- 国語教育の充実 言葉の働き、仕組みに関する理解
- 外国語教育の充実 「前倒しするのではなく」

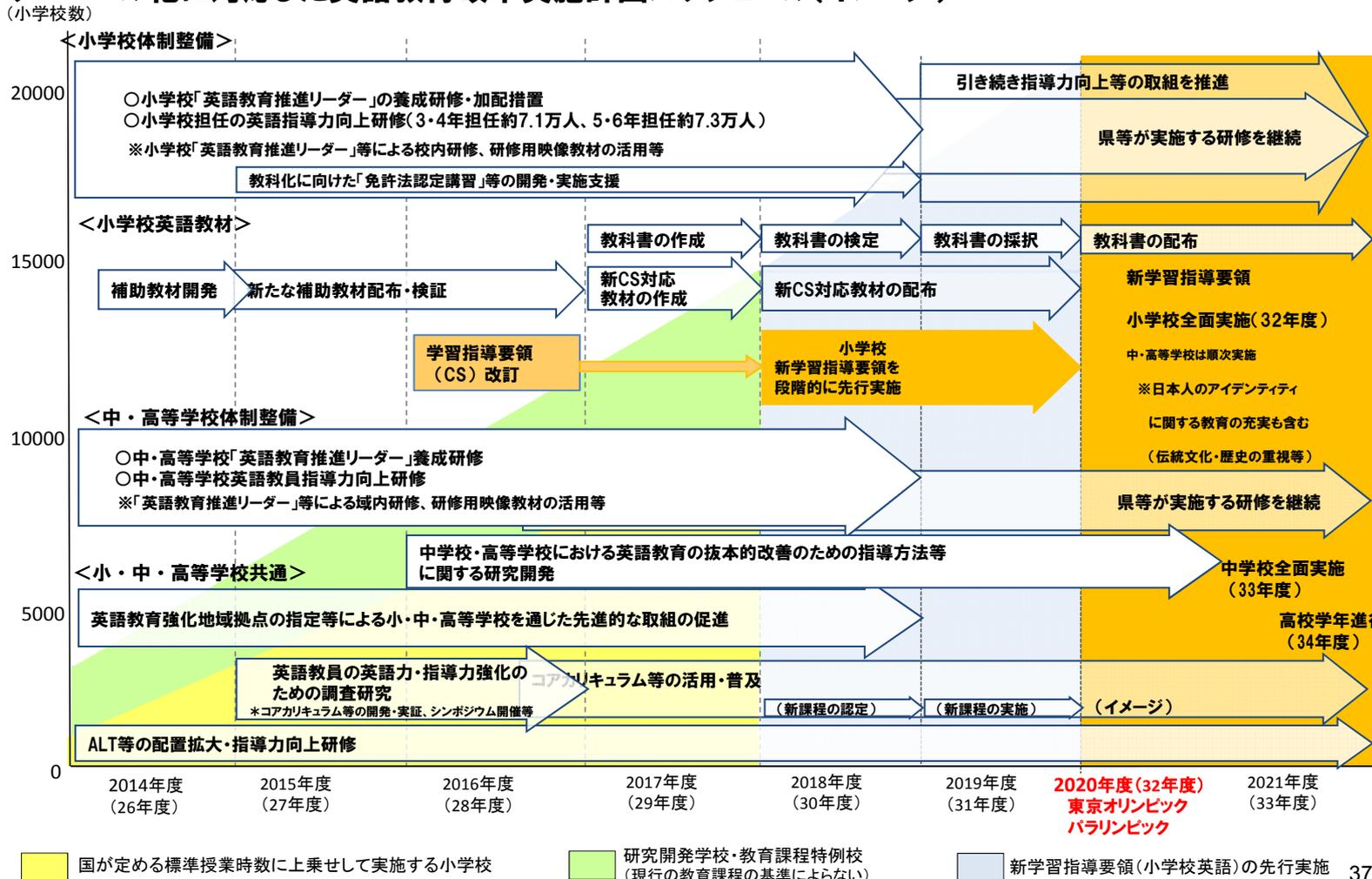
「高学年において年間35単位時間増となる時数を確保するためには、外国語科を中心に、教科目標を踏まえつつ、まとまりのある授業時数との関連性を確保した上で、効果的な繰り返し学習を行う短時間学習を実施することが考えられるが、他にも、45分に15分を加えた60分授業の設定、夏季、冬季の長期休業期間における学習活動、土曜日の活用や週あたりコマ数の増なども考えられるところであり、場合によってはこれらを組み合わせながら、地域や各校の実情に応じた柔軟な時間割編成を可能としていくことが求められる。」

「中学年については、外国語活動を短時間学習で行うことや、60分授業の設定は難しいと考えられるが、その他については同様の考え方に基づき、地域や学校の実情に応じた柔軟な時間割編成を可能としていくことが求められる。」 ← 条件整備

36

平成27年12月

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)



小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）

プログラミング教育の必要性の背景

- ・近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っている。こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものとなっている。
- ・自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中でもコンピュータとプログラミングの働きの恩恵を受けており、これらの便利な機械が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がりつつあるのではないかと指摘もある。

プログラミング教育とは

子供たちに、**コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを経験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」**などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、**どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力**

プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力



- 【知識・技能】
（小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。
- 【思考力・判断力・表現力等】
発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。
- 【学びに向かう力・人間性等】
発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

こうした資質・能力を育成する**プログラミング教育を行う単元**について、**各学校が適切に位置付け、実施**していくことが求められる。また、**プログラミング教育を実施する前提として、言語能力の育成や各教科等における思考力の育成**など、全ての教育の基盤として長年重視されてきている資質・能力の育成もしっかりと図っていくことが重要である。

【小学校段階におけるプログラミング教育の実施例】

【実施のために必要な条件整備等】

総合的な学習の時間	自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	音楽	創作用的ICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組合せなどを試行錯誤し、音楽をつくる学び
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び	図画工作	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び
算数	図の作成において、プログラミングの思考と学術的な思考の関係やよさに気付く学び	特別活動	クラブ活動において実施

- (1) ICT環境の整備
- (2) 教材の開発や指導事例集の整備、教員研修等の在り方
- (3) 指導体制の充実や社会との連携・協働

38

高等学校の教科・科目構成について(案)

平成28年6月15日
教育課程部会
高等学校部会
参考資料2

※科目構成等に変更があるものを抜粋

国語

論理国語 (仮称)	文学国語 (仮称)	国語表現 (仮称)	古典探究 (仮称)
-----------	-----------	-----------	-----------

現代の国語 (仮称)	言語文化 (仮称)
------------	-----------

外国語

英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ (仮称) (4技能統合型)	論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (仮称) スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等
英語コミュニケーションⅠ (仮称) (4技能統合型)	

※英語力調査の結果やCEFRのレベル、高校生
の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

家庭

家庭基礎 (仮称)	家庭総合 (仮称)
-----------	-----------

情報

情報Ⅱ (仮称)
情報Ⅰ (仮称)

理数

理数探究 (仮称)
理数探究基礎 (仮称)

数学

数学Ⅲ	数学C (仮称)
数学Ⅱ	数学B
数学Ⅰ	数学A

理科

	物理	化学	生物	地学
科学と人間生活	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎

地理歴史

日本史探究 (仮称)	世界史探究 (仮称)
歴史総合 (仮称)	

公民

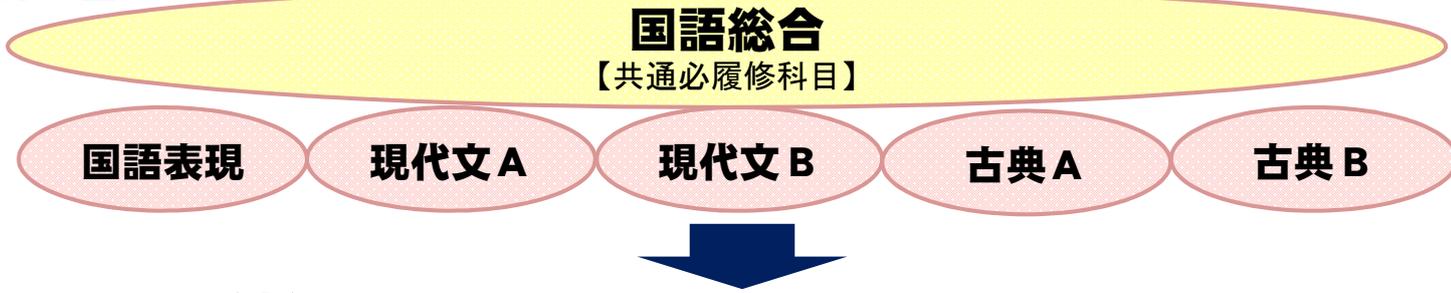
地理探究 (仮称)	倫理 (仮称)	政治・経済 (仮称)
地理総合 (仮称)	公共 (仮称)	

総合的な探究の時間 (仮称)

総合的な探究の時間 (仮称)

※ 理数探究(仮称)の新設などの状況も踏まえ、探究する能力を育むための総仕上げとして位置付け。

《現行科目》



《改訂の方向性（案）》

必修
科目
（案）

選択
科目
（案）

【現代の国語（仮称）】

実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目

- 実社会・実生活における言語による諸活動に必要な国語の能力の育成
- 例えば、
 - ・目的に応じて多様な資料を収集・解釈し、根拠に基づいて論述する活動
 - ・文学作品等を読んで、構成や展開、優れた表現などの効果について言葉の意味や働きに着目して批評する活動
 - ・根拠を持って議論し互いの立場や意見を認めながら集団としての結論をまとめる活動等の重視

【言語文化（仮称）】

上代（万葉集の歌が詠まれた時代）から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める科目

- 我が国の伝統や文化が育んできた言語文化を理解し、これを継承していく一員として、自身の言語による諸活動に生かす能力の育成
- 古典（古文・漢文）だけでなく、古典に関わる近現代の文章を通じて、言語文化を、言葉の働きや役割に着目しながら社会や自分との関わりの中で生かすことのできる能力の育成

【論理国語（仮称）】

多様な文章等を多角的・多面的な視点から理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成する科目

（主として、創造的思考とそれを支える論理的思考の側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成）

【文学国語（仮称）】

小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作に関わる能力を育成する科目

（主として、感性・情緒の側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成）

【国語表現（仮称）】

表現の特徴や効果を理解した上で、自分の思いや考えをまとめ、適切かつ効果的に表現して他者と伝え合う能力を育成する科目

（主として、他者とのコミュニケーションの側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成）

【古典探究（仮称）】

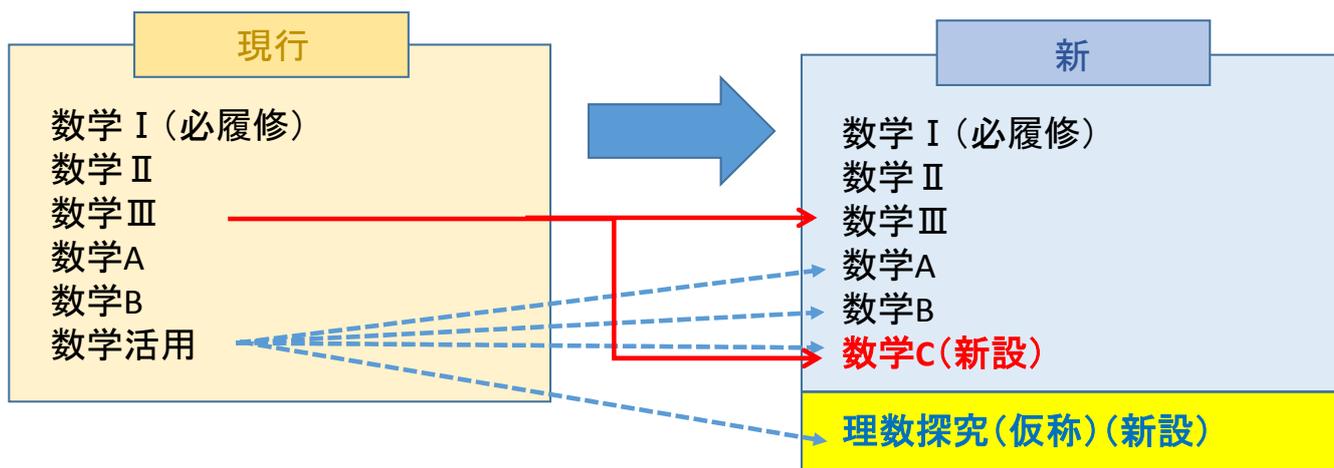
古文・漢文を主体的に読み深めることを通して、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する科目

（ジャンルとしての古典を学習対象として「思考力・判断力・表現力等」を総合的に育成）

40

科目構成の見直しについて（案）

高等学校数学科



- 理数探究（仮称）の創設に伴い数学活用を廃止
- 数学Cを新たに設置し、数学活用の内容を数学A、数学B、数学Cのいずれかに移行
- 数学Cは、「平面上の曲線と複素数平面」や「データの活用（仮称）」などで構成
- 数学Bの統計的な内容を数学Cに移行することについて検討
- 統計的な内容については、特に情報科などとの連携を重視

高等学校 家庭科（共通教科）の改訂の方向性（案）

平成28年6月8日教育課程部会
家庭、技術・家庭ワーキンググループ
資料6-3

現行学習指導要領	検討事項	今後の方向性(案)	
家庭基礎(2単位) (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 生活の自立及び消費と環境 (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	家庭科の見方や考え方 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに保つる生活事象において、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活を実現するために考えること 「論点整理」における指摘事項 ・生活の科学的な理解 ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成 ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化 ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視 ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成	目指す資質・能力等 ○自立した生活者に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能 ・家族・家庭についての理解 ・乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解・技能 ・生涯の生活設計についての理解 ・各ライフステージに対応した衣食住についての理解・技能 ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解・技能 ○家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して解決する力 ・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力 ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力 ○相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度 ・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ・様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度 ・生活を楽しく味わい、豊かさを創造しようとする態度 ・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度 ・自己のライフスタイルの実現に向けて、将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度	内容 必履修科目・単位 「家庭基礎(仮称)」2単位科目 ○少子高齢化に関する内容の改善 ・親の役割と子育て支援(乳児期)、高齢者の理解と生活支援技術の基礎、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実 ○衣食住の生活に関する内容の改善 ・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(食育、食文化等の充実) ○生活の科学的な理解の一層の重視 ○持続可能な社会の構築に関する内容の改善 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実 ○「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実
家庭総合(4単位) (1) 人の一生と家族・家庭のかかわりと福祉 (2) 子どもや高齢者との生活における経済の計画と消費 (3) 生活の科学と環境 (4) 生涯の生活設計 (5) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	関連する会議における提言等 ○少子化社会対策大綱(H27. 3. 20閣議決定) 妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る ○高齢社会対策大綱(H24. 9. 7閣議決定) 高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める ○第3次男女共同参画基本計画(H22. 12. 17閣議決定) 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る ○食育推進基本計画(H23. 3. 31食育推進会議決定) 学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する ○和食の無形文化遺産登録(H25. 12. 4) 日本の伝統的な食文化 ○消費者教育の推進に関する法律(H24. 8. 22) 学校における消費者教育の推進 ○環境基本計画(H24. 4. 27閣議決定) 学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する	小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭科における見方や考え方を踏まえた内容の改善	「家庭総合(仮称)」4単位科目 ○少子高齢化に関する内容の改善 ・親の役割と子育て支援(乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション)に係る内容の充実、高齢者の理解と生活支援技術、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実 ○衣食住の生活に関する内容の改善 ・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(食育、食文化等の充実) ・健康、安全等を考慮した衣食住の生活を総合的にマネジメントする力を育成するための内容の充実 ・日本の生活文化の継承・創造に係る内容の充実 ○生活の科学的な理解の一層の重視 ○持続可能な社会の構築に関する内容の改善 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実 ・消費生活や環境に係る地域への働きかけなど社会参画力を育成するための内容の充実 ○「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実
生活デザイン(4単位) (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立 (3) 食生活の設計と創造 (4) 衣生活の設計と創造 (5) 住生活の設計と創造 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			「家庭総合(仮称)」4単位科目 ○少子高齢化に関する内容の改善 ・親の役割と子育て支援(乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション)に係る内容の充実、高齢者の理解と生活支援技術、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実 ○衣食住の生活に関する内容の改善 ・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(食育、食文化等の充実) ・健康、安全等を考慮した衣食住の生活を総合的にマネジメントする力を育成するための内容の充実 ・日本の生活文化の継承・創造に係る内容の充実 ○生活の科学的な理解の一層の重視 ○持続可能な社会の構築に関する内容の改善 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実 ・消費生活や環境に係る地域への働きかけなど社会参画力を育成するための内容の充実 ○「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実 ※必履修科目の履修後は、生徒の特性や進路に応じて、専門教科「家庭」の科目を履修することができる。

高等学校における英語科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台）

別添13



課題

- 生徒の英語力について、4技能全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
- 英語の学習意欲に課題
- 言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動）が十分ではない
- グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う

4技能総合型(必履修科目を含む)の科目を核とする → **発信能力の育成をさらに強化する**

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーション I・II・III(仮称) ・4技能を総合的に育成(受信・発信のバランス) ・明確な目標(英語を用いて何ができるようになるか)を達成するための構成・内容 ・複数の技能を統合させた言語活動が中心 ・「英コミュI」は中学校段階での学習の確実な定着(高等学校への橋渡し)を含む。	学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を段階的に設定	論理・表現 I・II・III(仮称) ・「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化 ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心 ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする技能統合型の言語活動
--	---	---

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し
 ⇒ 総合英語 I・II・III(仮称)、ディベート&ディスカッション I・II(仮称)、エッセー・ライティング I・II(仮称)

改訂の方向性(案) 生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

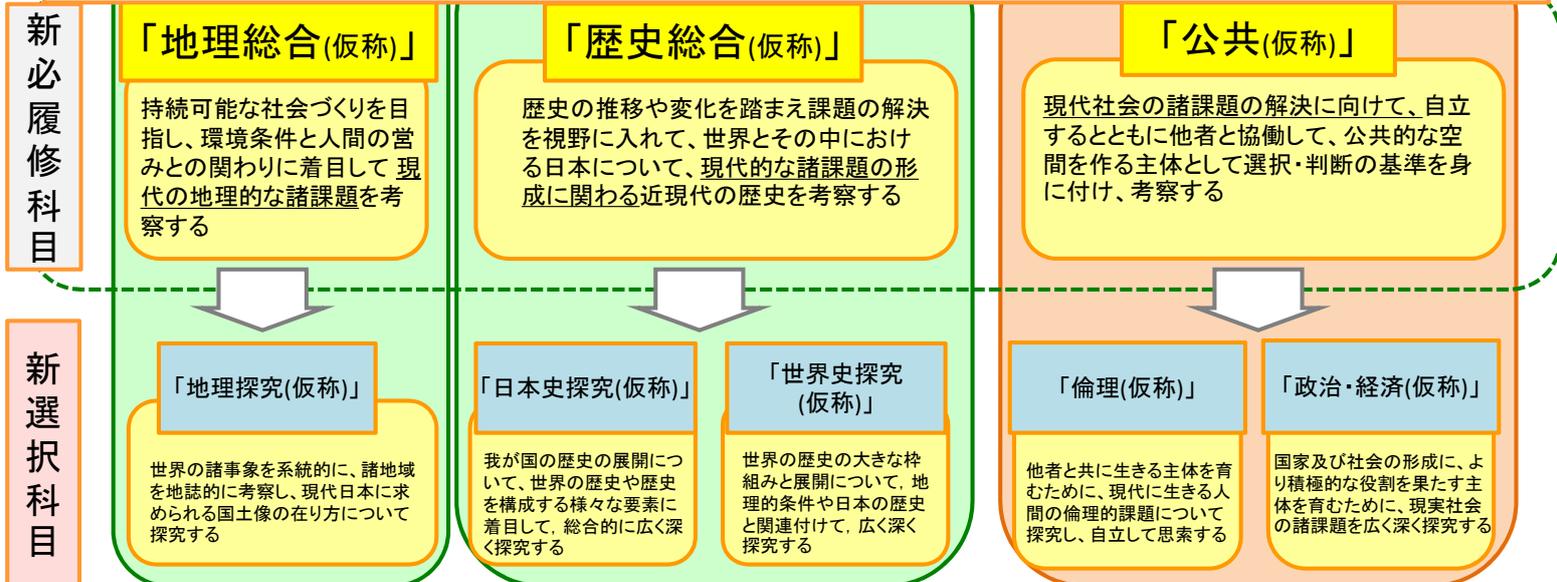
43

I ↓ III ↑ 内容の高度化・話題の多様化

地理歴史科

公民科

現代社会の諸課題の解決を視野に入れて考察(各科目について主として「空間」・「時間」及び「現代社会の構造等」に着目)



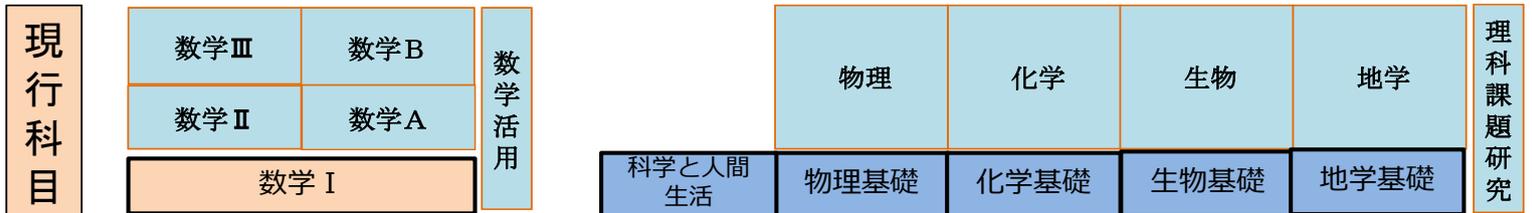
必修科目で育んだ理解や技能を用いて、より専門的な視野から広く深く探究

※ 地理歴史科については、新必修科目の名称としては、両者を習得することによって当該教科の高等学校における目標を達成するために必要とされる資質・能力を育む科目として両科目に「総合」を付すとともに、生徒の興味・関心や進路等に応じて「総合科目」を基盤に、より専門的な視野から考察を深め、探究を行う科目について「探究」を付すこととしてはどうか。

※ 公民科については、自立した主体として他者と協働して社会に参画し、公共的な空間を作る主体を育むことを目指す科目の内容を端的かつ適切に示すことが可能なものとして「公共(仮称)」とするともに、選択科目については地理歴史科と同様に探究を行う科目であるが、学習対象である「倫理」については「探究」がその本質的な内容の一部であることから、「倫理探究」といった科目名はなじまず、また、「政治・経済」のみに「探究」を付すことは、同一教科に置かれる同一の性格を持つ科目の名称について混乱させるおそれもあることから、「倫理(仮称)」、「政治・経済(仮称)」とすることとしてはどうか。

高等学校 理数科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）

普通科の場合



- ・ 数学活用：指導内容と日常生活や社会との関連及び探究する学習を重視。
- ・ 理科課題研究：知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視。先端科学や学際的領域に関する研究なども扱える。
- ・ 課題研究等の活動は生徒の論理的な思考を育成する効果が高いが、あまり開講されていない状況。（1割未満）
- ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）で設定されている「サイエンス探究」等では、数学と理科で育成された能力を統合し、課題の発見・解決に探究的に取り組むことで高い教育効果。

【諮問文】より高度な思考力・判断力・表現力等を育成するための新たな教科・科目の在り方について検討

○従来の数学と理科の各教科で求められていた資質・能力を統合した科学的な探究能力の育成を図る

◎専門的な知識と技能の深化、総合化を図り、より高度な思考力、判断力、表現力の育成を図る

○課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する力の育成を図る

理 数 探 究 (仮称)

SSHにおける取組み事例なども参考にしつつ、数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目

数 学

理 科

45(物理・化学・生物・地学)

◆理数科における科目の在り方についても検討

新
科
目
案

資
質
・
能
力

探究・・・物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営み

高等学校における総合的な学習の時間、課題研究、理数探究(仮称)

- 各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を**総合的**に活用するとともに、自己の**在り方生き方**に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら見方や考え方を組み合わせて**統合**させ、活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成する。

各教科

- 各教科の特質に応じて育まれる見方や考え方を活用しながら、各教科の本質的な理解等に向けて探究することのできる力を育成する。
- 各教科の本質的な理解等に向かうことが重要であることから、問いについては教師が効果的に設定しながら、学習者自身が知識等を構造化できるような学習過程を設定する場合と、学習者が問いを見出すことができるような学習過程を設定する場合とがある。

小・中学校の総合的な学習の時間

- 各教科等の特質に応じて育まれた見方や考え方を**総合的**に活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成する。
- 探究的な学習が自己の**生き方**に関わるものであることに気付く。

※上記のような力を育成する手立て(学習のプロセスや学習活動)としての「探究」が各教科等で行われている。(各教科等によって、学習のプロセスや学習活動は異なる。) 46

情報科新科目のイメージ

「情報Ⅰ(仮称)」(情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育成する共通必修科目)

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

(項目の構成案)

(1) 情報社会の問題解決	中学校までに経験した問題解決の手法や情報モラルなどを振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用して、情報社会への参画について考える。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用する力、事象をモデル化して問題を発見したりシミュレーションを通してモデルを評価したりする力を育む。
(4) 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。

「情報Ⅱ(仮称)」(発展的な内容の選択科目)

「情報Ⅰ(仮称)」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいは情報コンテンツを創造する力を育む科目

(項目の構成案)

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。
(2) コミュニケーションと情報コンテンツ	画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。
○ 課題研究	情報Ⅰ(仮称)及び情報Ⅱ(仮称)の(1)～(4)における学習を総合し深化させ、問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

情報科各科目の項目構成の考え方

- 項目(1)
・情報社会との関わりについて考える
・問題の発見・解決に情報技術を活用することの有用性について考える

※項目(2)～(4)の導入として位置付ける

- 項目(2)～(4)(情報Ⅱ(仮称)は(2)～(4))
①(各項目に応じた)情報、情報技術や問題解決の手法等を理解する
②問題の発見・解決に情報技術を活用するとともに、自らの情報活用を評価・改善する

※②においては、①において習得した知識の概念化を図るほか、問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上、情報社会に参画する態度の育成を図る

※主として②において、情報科における「見方・考え方」を働かせるとともに成長させる

※必ずしも①、②の順に学習するものではなく、「情報科における学習プロセスの例」に示すように、学びのつながりと広がりを意図して、情報や情報技術等に関する知識の習得と、それらの知識の問題発見・解決への活用を並行して行うことも考えられる。

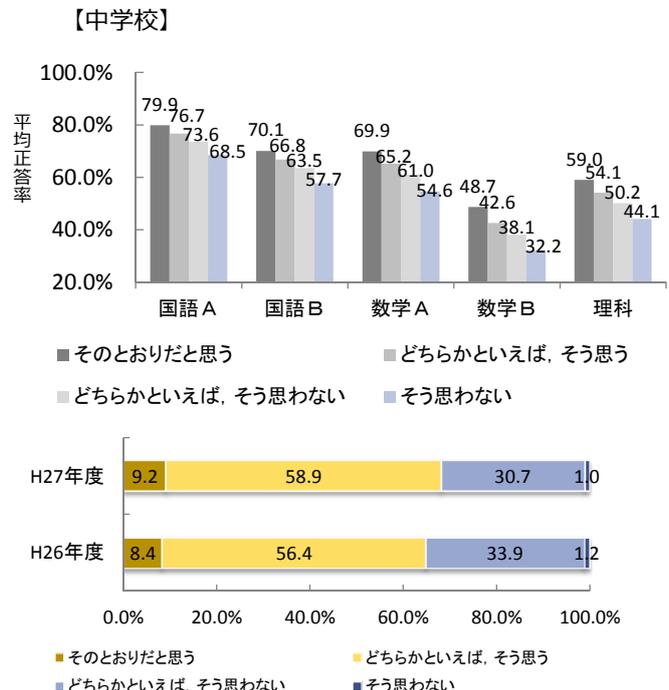
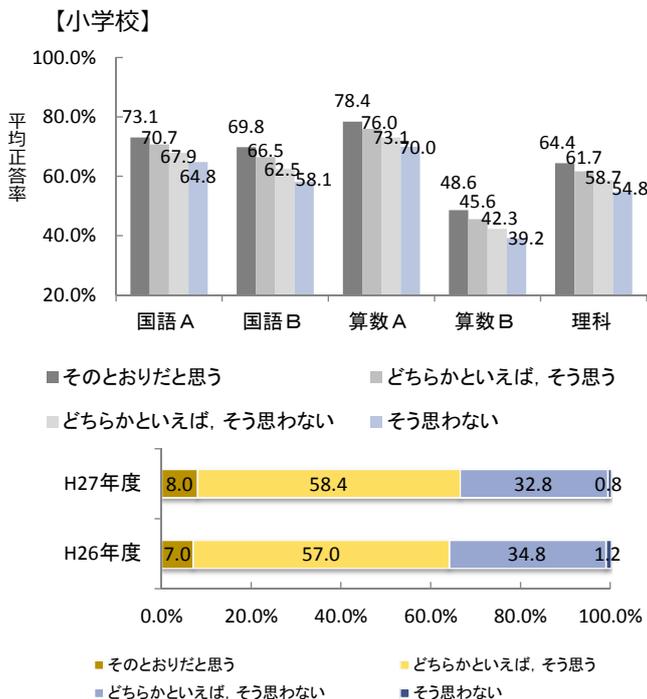
5. どのように学ぶか（指導案等の作成と実施、学習指導の改善・充実）

深い学びと学力の関係 —平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から—

◆「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」について、肯定的回答の方が平均正答率が高い状況であった。

【質問項目】

調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか。



※選択肢毎の平均正答率は、選択肢の回答数が100校未満のものについては、一つ前の選択肢の回答とまとめて算出

○「論点整理」におけるアクティブ・ラーニングの視点

【深い学び】

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

【対話的な学び】

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

【主体的な学び】

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

総則・評価特別部会及び各教科等WGの議論を踏まえ、以下のように整理できるのではないか

【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「深い学び」が実現できているか。

【対話的な学び】

子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

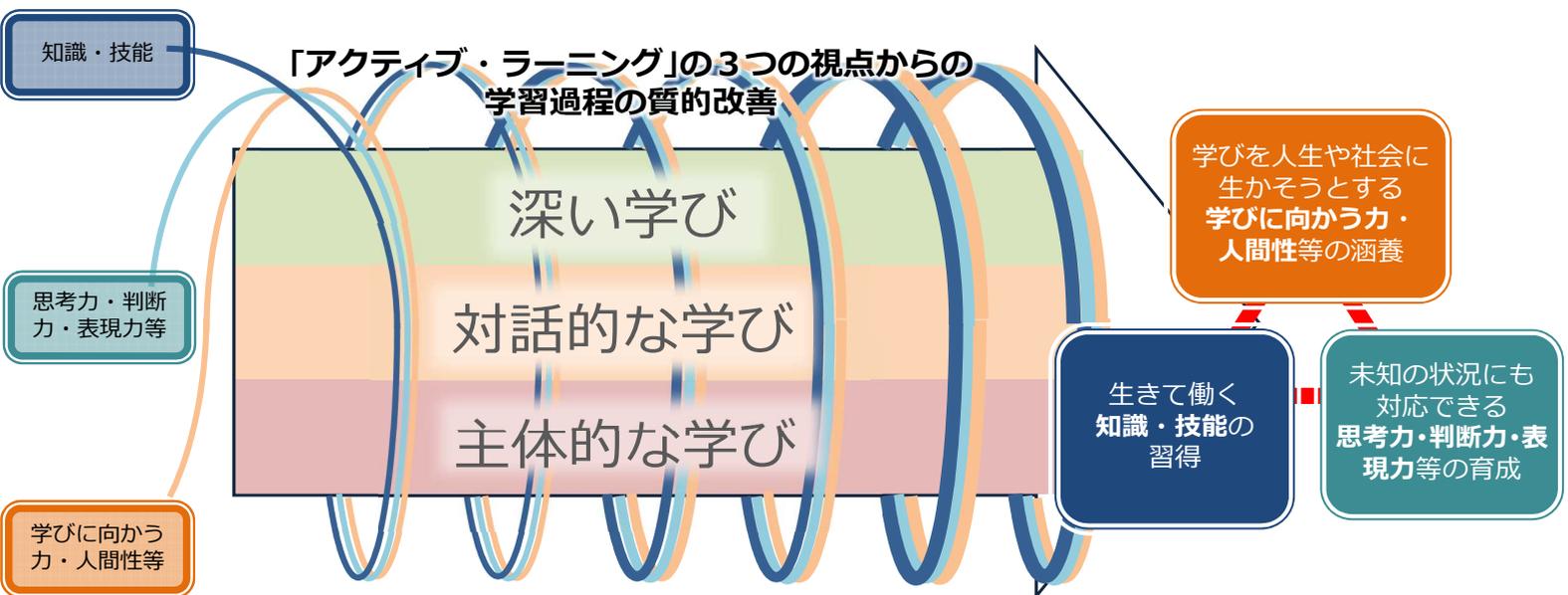
【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

50

資質・能力の育成と
 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）（案）

- ◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。
- ◆ 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



※ 基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においても、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

学習指導要領改訂のポイント(「教育の強靱化に向けて」平成28年5月10日)

急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるために必要な知識や力を育むため、以下のような方向性で学校の教育課程を充実。

- 「ゆとり教育」か「詰め込み教育」かといった、二項対立的な議論には戻らない。知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、**学習内容の削減を行うことはしない。**

高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

- 学校教育のよさをさらに進化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。

「**アクティブ・ラーニング**」の視点は、**知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くこと**を目指すもの。知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための**学習過程の質的改善**を行う。

①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠。

- こうした方向性のもと、必要な教科・科目構成等の見直しも行う(小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共(仮称)」等の新設など)。

**本年度中に学習指導要領を改訂し、
2020年から順次実施。**

高等学校は来年度改訂

6. 何が身に付いたか (学習評価の充実)

観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の4観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

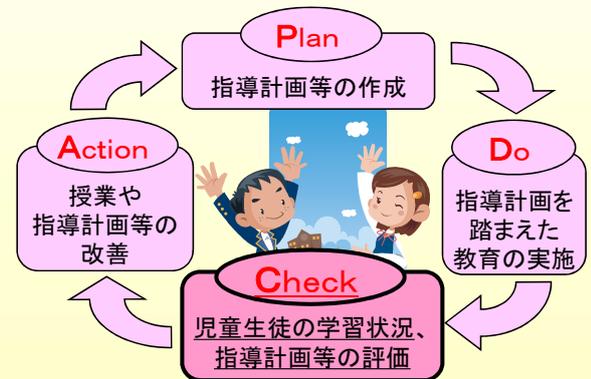
思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

54

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。
指導と評価の一体化



学習評価の改善に関する今後の検討の方向性

各教科等の評価の観点のイメージ（案）

観点（例） ※具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ（例） ※具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討	（例） ○○を理解している／○○の知識を身に付けている ○○することができる／○○の技能を身に付けている	（例） 各教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	（例） 主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている

各教科等の学習評価の観点のイメージ案（高等学校段階）

※平成28年6月15日現在、各教科等WGで検討中の案を抜粋したものの

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語科	(例) 生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使っている。	(例) 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、他者や社会との関わりの中で、国語で的確に理解したり効果的に表現したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めている。	(例) 言葉を通じて積極的に他者や社会と関わったり、思いや考えを深めたりしようとするともに、言葉の価値を認識し、自覚的に読書に親しんで言葉を効果的に使おうとしている。
地理歴史・公民科	○社会的事象等について(～は～である)理解し、その知識を身に付けている。 ・主として事実等に関わる知識(用語・語句などを含める) ・主として概念等に関わる知識(特色、意味、理論など) ○社会的事象等を調べまとめる技能(社会的事象等に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能)を身に付けている。 ・情報全体の傾向性を踏まえて ・必要な情報を選んで ・複数の情報を見比べたり結び付けたりして ・資料の特性に留意して (例: 情報を読み取る技能の場合)	○社会的な見方・考え方をを用いて、社会的事象等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している。 ○社会的な見方・考え方をを用いて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想している。 ○考察したことや構想したことについて、説明したり議論したりしている。	○学習対象(社会的事象等)について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究している。 ・問いや追究の見通しを持って ・粘り強く(試行錯誤して) ・他者と協働して ・振り返り、学んだことの意味に気付いて ○よりよい社会を考え学んだことを生かそうとしている。 ・学んだことを社会生活に生かそうとして ・よりよい社会の実現を考えようとして ・身に付けた見方・考え方を新たな問いに生かして
理数探究(仮称)	探究の過程全体を自ら遂行するための知識及び技能や、研究倫理にかかわる基本的な知識を身に付けている。	・多角的・多面的、複合的な視点で事象を捉え、科学的・数学的な課題として設定することができる。 ・探究を通じて課題を解決するために、多様な価値観や感性を有する人々との議論等を通じて多角的・多面的に思考するとともに、探究の過程全体を自ら遂行することができる。	・様々な事象に対して知的好奇心をもって科学的・数学的に捉えようとし、新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦したりしようとする ・科学的、数学的な課題や事象に徹底的に向き合い考え抜こうとする。 ・適宜見通しを立てたり、学習内容を振り返ったりするとともに、新たな疑問を抱き、次につなげようとする。
56			
数学科	・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付けている。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力を身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとする。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする。
理科	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。
保健体育科	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活における健康・安全について、課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしている。
芸術科(音楽)	(例) 音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	(例) 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。 音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	(例) 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、音や音楽を生活や社会に生かそうとし、主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に取り組もうとする。
芸術科(美術)	(例) 造形的な見方・考え方を働かせて、造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。 造形的な見方・考え方を働かせて、意図に応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能を身に付けている。	(例) 造形的な見方・考え方を働かせて、主題を生かして、創造的な表現の構想を練っている。 造形的な見方・考え方を働かせて、美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉えそのよさや美しさを創造的に味わっている。	(例) 造形的な見方・考え方を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

芸術科 (工芸)	<p>(例) 造形的な見方・考え方を働かせて、造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、工芸作品、伝統工芸などについて造形的な特徴から工芸の特質などを理解したりしている。</p> <p>造形的な見方・考え方を働かせて、意図に応じて造形要素や素材、用具の特性を生かしたり、手順や技法などを吟味し創意工夫したりして制作するなどの創造的な技能を身に付けている。</p>	<p>(例) 造形的な見方・考え方を働かせて、心豊かな発想をし、用と美、よさや美しさなどを考え制作の構想を練ること。</p> <p>造形的な見方・考え方を働かせて、工芸作品などを様々な観点から鑑賞して、美的体験を豊かにし、心豊かな生き方に関わる工芸の働きや、工芸の伝統と文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。</p>	<p>(例) 造形的な見方・考え方を働かせて、工芸の創造活動の喜びを味わい、身近な生活や社会における工芸の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p>
芸術科 (書道)	<p>(例) 書の特質に即した見方・考え方を働かせて、表現方法、形式、書表現の多様性を理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について、創造的な表現と鑑賞の活動を通して理解したりしている。</p> <p>書の特質に即した見方・考え方を働かせて、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫するために、用具・用材の特徴を理解し、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付け表している。</p>	<p>(例) 書の特質に即した見方・考え方を働かせて、書のよさや美しさ感受し、自らの意図に基づいて豊かに構想し、効果的に表現を工夫している。</p> <p>書の特質に即した見方・考え方を働かせて、書のよさや美しさを創造的に味わうとともに、文字や書の効用を考え、作品の意味や価値を見出し、書の伝統と文化について深く捉えたりしている。</p>	<p>(例) 書の特質に即した見方・考え方を働かせて、書の創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。</p>
外国語科	<p>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。</p>	<p>○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。</p>	<p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p>
家庭科	<p>生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等に関する知識・技能を身に付けている。</p>	<p>家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な理解に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決している。58</p>	<p>様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。</p>

情報科	<p>情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識と技能を身に付け、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。</p>	<p>事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用している。</p>	<p>情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報及び情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。</p>
総合的な探究の時間(仮称)	<p>学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている。</p> <p>探究することの意義や価値を理解している。</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方・考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している。</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見出し、主体的・協働的(協同的)に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、主体的にさらに高次の課題に取り組もうとしている。</p>
特別活動	<p>よりよい集団活動に向けた実践をする上で必要となる知識や技能を身に付けるとともに、多様な他者との様々な集団活動の意義や役割、価値を理解している。</p>	<p>所属する様々な集団や自己の生活上の問題を見だし、その解決の為に話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりするために、思考・判断・表現している。</p>	<p>様々な望ましい集団活動を通して身に付けたことを生かし、自主的・実践的によりよい人間関係を構築しようしたり、よりよい集団生活や社会を形成しようしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしている。</p>
産業教育	<p>・各職業分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解している。</p> <p>・関連する技術を身に付けている。</p>	<p>・各職業分野に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p>	<p>・より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>